

令和7年度 第1回東海村環境基本計画推進委員会

■日時：2025年6月27日（金） 18:30～20:30

■会場：東海村役場 2階 203会議室

■出席者

委員

No.	氏名	所属	備考
1	照沼 毅	事業者代表 東海村メガソーラー株式会社 代表取締役	会長
2	戸川 隆	住民代表	副会長
3	川崎 卓男	住民代表	
4	鈴木 由貴子	住民代表	
5	佐藤 章一郎	事業者代表 株式会社佐藤工務店 代表取締役	
6	日野 敬介	事業者代表 イオンリテール株式会社イオン東海店 店長	
7	藤分 卓次	事業者代表 フジワクリーン 代表	
8	松本 友香子	住民代表	

事務局

役職	氏名
環境政策課 環境政策課長	関田砂織
環境政策課 課長補佐	井澤良則
環境政策課	井坂駿佑

事務局（国際航業株式会社）

役職	氏名
河川海洋部 調査グループ 主任技師	深田雅彦
カーボンニュートラル推進部 技師	香川裕紀
カーボンニュートラル推進部 グループ長	直井隆行
河川海洋部 調査グループ 技師	三浦雄太
水戸営業所	池田英助

■次第

- 1 開会
- 2 会長あいさつ
- 3 環境政策課長あいさつ
- 4 議事
 - (1) 計画策定スケジュールと今回会議の目的
 - (2) 前回委員会の振り返り
 - (3) 計画素案の要点について
 - (4) 計画素案について質疑応答・意見交換
 - 資料1 全体スケジュールと各会議の目的
 - 資料2 前回推進委員会の振り返り
 - 資料3 第4次東海村環境基本計画素案の要点
 - 資料4 第4次東海村環境基本計画素案
- 5 その他
- 6 閉会

■議事録

1. 開会	
2. 会長あいさつ	
照沼毅会長より、以下のあいさつを賜った。 ・素案の内容について、皆さんと一緒に協議をしながら、内容の良い計画案を作っていきたい。	
3 環境政策課長あいさつ	
関田環境政策課長より、以下の旨のあいさつを行った。 ・本委員会では第三次東海村環境基本計画の満了を迎えるにあたり、昨年度から次期計画策定に向けた議論を進めており、皆様からの意見を基に計画骨子の作成、再生可能エネルギー導入目標の策定を行ってきた。 ・本日は、今年度の策定を目指している第四次環境基本計画の素案についてご協議いただく。 ・カーボンニュートラルの達成、気候変動への適応、資源循環の推進、生物多様性の保全など多岐にわたる環境課題に対して、具体的かつ実効性のある取り組みを進める必要があり、皆様一人一人の視点や知見が不可欠であるため、活発なご意見をいただきたい。	
4. 議事	
第4次環境基本計画の策定に向けての説明として、事務局より以下の説明を行った。 ・昨年度、計画骨子の作成及び再生可能エネルギー導入目標の策定を行った。 ・今年度は各種施策等計画の本編を決定していく。 ・本日は、今年度の委員会のスケジュールや進め方、各会議の目的、前回委員会の振り返り、計画素案に関する意見収集を行う。	
資料1、資料2について	
事務局より、今年度の委員会のスケジュールや進め方、各会議の目的、前回委員会の振り返りについて、説明を行った。【資料1、資料2】 資料1、2に対する委員からの質問はなかった。	
資料3、資料4について	
事務局より、第4次東海村環境基本計画策定に向けた全体スケジュールと計画骨子（案）について説明し、質疑応答・意見交換を行った。【資料2、資料3】	
委員	OECMのモデルケースや、認定を受けているところがあれば、後日教えていただきたい。
委員	「サーキュラーエコノミー」は新しく出てきた言葉だと思うが、初めて聞く人にもわかりやすいように説明を入れていただきたい。
事務局	資料4、p.14にサーキュラーエコノミーに関するコラムを入れている。リサイクルしたものが、再度原料となり循環するような経済の考え方である。国や研究機関が今後どう実現していくかを研究している段階であり、個々の自治体で取り組みをしていくのは難しい段階だと思っている。実際の取組としては、これまで実施しているリサイクルやごみゼロ運動などを引き続き推進することを考えている。

委員	自治体加入促進が削除された理由を教えてください。
事務局	環境基本計画の施策に敢えていれなくてもよいのではと考えた。
委員	コミュニティセンター単位で村長との懇談会があり、そこで自治会の加入促進については大きなテーマになる。村長も推進していきたいという意向を持っている。また、自治会の役員になった方には、クリーン作戦に参加していただいているが、このような活動を実施しているということが認識されることで、意識が高まってくるということもある。まちをきれいにするのは、環境にプラスになるのではないか。
事務局	環境をいかによくしていくかという観点で、自治体加入も必要だという言い回しを含めて検討する。
委員	クーリングシェルターとは何か。
事務局	空調が効いた公民館等の公共施設を開放して、住民がいつでも利用できるようにしている施設のことである。熱中症の警報が出た際に開放され、自治体によっては民間のコンビニ等にも協力依頼しているところもある。
事務局	補足すると、昨年の法改正により、クーリングシェルターという制度ができた。基本は熱中症警戒情報の1つ上の熱中症特別警戒情報が出た時に、クーリングシェルターとして指定されている施設を無条件で解放する制度である。東海村は昨年この制度ができた際に、公共施設 10 施設とイオンさんをはじめ、民間施設 4 施設をクーリングシェルターとして指定している。また、東海村では、熱中症特別警戒情報が発令されていないときでも、営業時間の範囲内で、常時開放していただいている。住民にご活用いただきたい。
委員	クーリングシェルターの設置について、更にPRしていただきたい。
事務局	7月号の広報とうかいにも載せる予定である。
委員	p.47 の廃棄物を減らす取り組みについて、人口が減れば総重量も減ることになる。例えば、1人当たりのごみの総重量などにしたほうがよい。
事務局	東海村一般廃棄物処理基本計画を基に、1人当たりの総重量を年間1%ずつ削減することとした。ご指摘を踏まえて、再検討する。
委員	ソーラーカーポートの導入について、東海村では住宅用の太陽光発電設備導入に対して補助金が出ている。同様にソーラーカーポート導入に絞った補助金が出てくる可能性はあるのか。
事務局	住宅用の太陽光発電設備に対する補助は、住宅屋根のみを補助対象としている。ただし、近年の技術開発による軽量化により、土地の有効利用の観点でカーポート利用というところも増えてきていると思われる。周辺自治体の情報を収集しながら、カーポート上の太陽光も補助対象に拡大することを検討していく。
委員	現状、既に補助金をもらっている方はもらえないのか。
事務局	今のところはその認識であり、設置できる場所を広げるという観点で検討する。次期計画期間中には、既設の太陽光発電の寿命を迎える方も多くなり、入れ替え

	に関しても検討が必要である。
委員	昨今の暑さから、エアコンを相当使用するため、夜間の電力を補う蓄電池の導入も考えると、太陽光パネルそのものを増やしていく必要がある。予算の兼ね合いもあるが、情報を収集して検討していただきたい。
委員	p.47 のリデュースについて、言葉の定義をコラムなどでいれたほうが良い。
事務局	その他、抜けている取り組みや、入れてほしい取り組みなどあれば、ご意見いただきたい。
委員	環境においても自治会関係が一番基本的なところだと思う。百塚地区は高齢者が多く、常会が無くなったことにより、資源回収の場所の維持は誰が行うのか課題になるなど、自治会が崩壊しつつある。自治会に関する内容がここから抜けるのは違うのではないか。
事務局	前回推進委員会の後に、庁内の各担当課にヒアリングを実施した中で、自治体加入促進は他で位置付けられていることもあり、環境基本計画からは削除してもよいのではないかとということで、ご提案させていただいた。村として自治会加入促進をしないということではない。
委員	高齢者対策を取り入れることになっているが、具体的な内容を教えていただきたい。
事務局	高齢化対策は言葉が広すぎるが、施策としては、人材のネットワークづくりに関する取り組みとなる。人材ネットワークづくりを促進するにあたり、高齢化対策に向けての取組ができればと考えている。
委員	「若い世代とのつながり」などの文言の方がよいのではないか。重要なのは子育て世代等も一緒にやってもらうという観点だと思う。活動していることを各世代に伝える取り組みが重要である。高齢者で括られるとわかりづらい。自治会に関する記載の削除には納得している。どこの課が自治会加入を促進しているのか教えていただきたい。現状では加入促進をしている姿が見えない。
委員	高齢化対策の促進に関して、少子化問題も付け加えてもいいのではないか。日本だけでなく韓国でも少子高齢化が進んでおり、文言として取り上げた方がよい。東海村でも少子高齢化が進んでいるため、高齢化を入れるのであれば、少子化に関しても入れた方がよい。
事務局	本項目は、人材団体のネットワークに関する分野となる。「あらゆる世代」などの表現にして、次回までに再検討する。
委員	住民の意識を高めるためには、誰がやるのかという観点が重要である。具体的に誰がやるのか記載しないと、住民は役場だけがやると考えてしまう。「住民がつくるゼロカーボンシティ」など誰がやるのかかわかるようにしてほしい。
事務局	行政、事業者、住民での役割があるとよいと認識した。
委員	p.47 について、東海村では元々 3R は継続して実施している。そのため、「3R だけでなく、エシカル消費などの推進により…」といった文章にすると、住民が新

	しい取り組みとして理解しやすい。
事務局	修正する。
委員	p.39 の省エネ・再エネに関して、具体的な取り組みは太陽光パネルの助成や、E V の補助金等の施策になるのか。また、住民としては、再エネを取り入れていくということによいか。
事務局	村としては補助金の範囲拡大や再エネの導入を進めていくなどであり、住民の取組としては、CO2 の排出量が少ない電気プランに変更する取り組みがある。
委員	それらについて、役場から情報提供する認識で良いか。
事務局	2-1①はそのような取り組みである。施策や取組によっては、行政が主体のもの、住民に取り組んでほしいものがある。
委員	住民に取り組んでほしいところは具体的に書いてもよいのではないか。
事務局	区域施策編では細かく役割を記載していたが、環境基本計画内では詳細に記載していなかった。
委員	2-4②③は環境政策課が取り組む内容か。
事務局	その通りである。方針、個別施策、取り組みの順で記載しているが、取り組みの下に具体的な業務などが入る。そこでどれだけ成果を出すかで、取り組みの評価が変わる。
委員	どのように取り組むかが気になった。
事務局	現行計画では、毎年半期ごとに細かい取り組みについて評価していただいていたが、次期計画では細かい取り組みは載せないイメージである。
委員	レジリエンスという言葉は難しい印象である。
委員	企業に勤めている人はわかるが、住民には伝わりづらい。もう少し柔らかい表現にしてほしい。
事務局	コラムや用語集で説明を入れる。
委員	道路舗装に関して、東京都と同様にヒートアイランド現象を防ぐため、メインの村道はグレーにすることもよいと考える。
事務局	都内では低反射率の舗装はよくやっている。
委員	村に検討していただきたい。
委員	p.33 について、将来的には線状降水帯の発生や、危険エリアの情報をタイムリーに提供できる仕組みを作っていただきたい。リアルタイムで河川の水位が見れるとよいのではないか。費用が掛かるかもしれないが、そのような情報提供があるとよい。
事務局	ご意見として伺う。
委員	施策の方向性の中に、行政、住民、事業者の役割が記載されるとよい。
事務局	現行計画では、ご提案いただいたように記載している部分があったと思うので、見せ方を検討する。
委員	舗装に関しては、透水性舗装の記載もあるので、ヒートアイランドと絡めてグレ

	一の道路についても、ご検討いただきたい。
委員	バスのEV化も有効だが、バスに乗せる工夫も重要である。病院、イオンなど生活圏で使う利便性の高い場所には停留所を置くといった対応が必要である。若い人は車で移動できるが、運転できない人が都合の良いところにいけるようにしてほしい。そうすればバスの乗客数も増えると思う。
委員	境町では、自動運転バスの運行も行われている。
委員	p.50-51について、3Rの意識向上はごみ袋やレジ袋の有料化など、外部からの圧力により行われることもある。そのため、意識を高めるだけではごみは減らないのではないか。具体的な施策としては弱いと思う。また、剪定枝葉や草の活用、高齢者世帯の個別収集実施はどのようにやるのか。 食品ロス対策も記載があるが、各家庭レベルでは不十分であり、廃棄の多くを占める企業の対策が必要なのではないか。本気度があまり見えない。
事務局	ごみの分別や減量をすることで住民にインセンティブを与えたり、レジ袋の料金を更にあげたりするなど、やり方はあると考える。参考にさせていただく。
委員	p.51は資源ごみをどう回収していくかという内容で良いか。
事務局	その通りである。資源ごみの循環について記載している。
委員	枝葉は役場が引き取ってくれるのか。
事務局	現状、清掃センターに直接搬入された枝に関しては、堆肥化している。集積所に出されたものは焼却される。
委員	一般家庭では再利用できない。
事務局	おっしゃる通り、家庭レベルでは困難と認識している。
委員	我が家でも選定した枝葉のうち、細かいものはコンポストに入れて肥料にしているが、太い枝については、処分が難しく溜まってしまい苦労している。
委員	資源ごみだけでなく、普通のごみも集積所まで持っていくことは高齢者にとっては困難である。有料化してもよいと思うので、戸別収集を実施してほしい。完全戸別でなくても、現状のように数百メートル離れたところまで運ぶのではなく、日立市のようにネットをかけてそこに集めるような細かい範囲で集荷していただきたい。要介護認定でない方も利用できるようにしてほしい。
事務局	議会でも議論されている内容である。今後の検討課題とさせていただく。
委員	5つの環境目標の最後に「人材育成」とあるが、あまりにもストレートすぎるのではないかと。住民側からすると何か教育されるのかと考えてしまう。柔らかい言葉になるよう言い回しを検討していただきたい。
事務局	承知した。
委員	エシカル消費や食品ロス対策について、事業者間の連携等もしていきたいと考えている。昨今、干し芋や食品残渣を使用した製品が増えている。イオン内では干し芋の残渣を使用したケーキなども売られており、これを買えばごみゼロに繋がるなどの宣伝があるとよい。事業者が宣伝をしなければ住民には伝わらないと考

	える。 また、東海村らしくイモゾーのロゴを使用した商品をイオンやカスミで提供できるとよい。
委員	「とうかい育ち」のように商品を購入することでインセンティブがあるような仕組みが良い。
委員	現状、農産物のみである。同様の取組を展開し、商品ロスにつなげることが重要である。
委員	熱中症予防情報はどのように案内しているのか。
事務局	屋外無線で実施している。国が地域ごとにアラートを出すことが前日に伝えられる。村の基準があるわけではない。
委員	以前伊勢崎市に住んでいた際は、「今日は42℃を超えるので、外出は控えてください」のような放送があった。そのような放送があれば、高齢者の方も今日は外出を控えようとなるのではないか。
事務局	次回の推進委員会では、今回の意見を反映させたものを示す。
5. その他	
6. 閉会	

■推進委員会の様子

